

C-13 ルイ十四世時代の男子服の表現性

学習院女短大 菅原 珠子

ルイ十四世時代といえば、一般にバロックからロココへの転換期といわれる。この時代の男子の服装においては、ルネッサンス以来男子服の中心をなして来たプールポアンの変形、スカートのように広がったラングラーブの出現と消滅、十八世紀にアビとして名実ともに整えられるジュストコー、とキュロットによる新しい服装形式な

ど、いくつかの衣服の形がみられる。また華美な金銀モールから、更にある時期に衣服一着につき数百に達したりボン飾りや、二三段に重ねられた波打つレース、などの多様な装飾によって服飾美が追求された。

人間が衣服の一面において示そうとするものは、時には権威の象徴であり、時には富の誇示であり、また快樂の満足である。そしてこの時代には、幾度かの奢侈禁止令によって装飾技法に多少の変化がみられたとはいえ、人間の求める服飾のある姿が種々の形で表現されていることが感じとれる。体型にそった衣服の、殊に男子服における装飾と変形の一つの局面を追う意味で興味深いところから、この時代の服飾の追究を試みた。